

# 道写協

## 北海道写真協会

事務局 ■札幌市中央区大通西3丁目6道新文化事業社内

011・210・5735(直通) 011・207・3939(FAX)

http://www.dosyakyu.org/

### 第106号

## デジカメ全盛時代に思うこと

北海道写真協会会長 **喜多 義憲**



今年五月の第五回写真道展で、公募部門の応募作品の四九%がデジタルカメラによるものと聞いた時、デジカメ普及のすさま

じいスピードを見守ってきた者として、複雑な感慨を覚えました。それはコンピューター万能時代に付随する現象として当然の帰結と思う半面、銀塩あるいはアナログと呼ばれる従来型のカメラが人々から忘れ去られないか、という懸念を感じたからです。

実は、私は北海道新聞社で日常取材にデジタルカメラを本格的に使った最初の記者です。一九九七年三月、シンガポール支局に赴任するときに、オリンパスから発売されて間もないデジタルカメラを携えて行きました。CAMEDIA C-800Lといます。八十万画素CCD機能を持ち十三万画台という価格は普及機としては画期的な安さでした。

それまでの普及機はせいせい三十万画素程度。これではアナログカメラに比べて解像度が

低く、新聞紙上では使い物になりませんでした。

なぜ、自腹を切つてまでデジカメを携行したのか。動機はさらに、ソウル特派員をしていた一九九〇年前後にさかのぼります。

ソウルから韓国内の地方都市や第三国に出張して、現地から写真を札幌本社に送るには、撮つた写真を町のDP屋でネガにし、それをAPやロイターなどの外国通信社の支局に持ち込み、共同通信(東京)経由で札幌に電送しなければなりません。

写真を送るのに手間取り貴重な取材時間が食われる苦い経験が身にしみている、シンガポールでの取材では、インターネットとデジカメを使って自分の手で直接札幌に写真を送ることにこだわったのです。

デジカメは、思惑通りインドネシアのスハルト失脚や香港返還などの出張取材に威力を發揮しました。

その後、新聞社のデジカメ化は急速に進み、現在では取材記者、カメラマンを問わず、すべてデジタルカメラになつてしまいました。

デジカメは新聞業界だけでなく、一般社会でもすさまじい普及をとげました。爆発的な普及はデジカメ技術の進化を加速化させ、技術革新がさらなる普及につながるというスパ

イラル現象です。

北海道新聞社は北海道写真協会の発展にお力添えしているように、高校生の写真活動のメッカ、東川町の写真甲子園(全国高等学校写真選手権大会)の主催団体に名を連ねて支援しています。どこでも、年々予選参加校が増えています。どこでも、年々予選参加校が増えています。どこでも、年々予選参加校が増えています。どこでも、年々予選参加校が増えています。どこでも、年々予選参加校が増えています。

デジカメはどこまで進化するのかわかりませんが、その一方で、アナログカメラをこれまで以上に大切にしなければならぬと思うのです。

光と影の芸術としての写真の真骨頂はアナログにあることはフォトグラファーのだれもが知っています。

それらはデジカメでは表現できない領域をこれからも持ち続けていくと、私も確信しています。

職業人としての私のカメラの原点は一九七二年、稚内で新聞記者のスタートを切つたときに買ったニコマートです。

とつくの昔に退役した私の宝物は今、自宅のカメラケースの中、ニコンD100の隣で、いつづつ、ずつしりと姿を見せています。暇を見つけてこれだ撮影し、デジカメとの違いをあらためて見てみたいと思つています。

### 略歴

一九七二年、北海道新聞入社。社会部記者、ソウル、シンガポール駐在、編集局総務、出版局長などを経て現在、取締役事業局長。六十歳。大阪府出身。

21世紀の大発見 好新感爆棚中

# よみがえる 黄金文明展

〜ブハラに眠る古代シルクシアの発見〜

いま長い眠りから目覚める 誇り高きトウキオの美者たち

2008年 9月13日(土)〜11月7日(金)

会場:北海道立近代美術館

TEL:011-644-6041(事務局)

チケット:大人1,200円(中学生500円) 小学生300円

お問合わせ:TEL:011-644-6041

北海道新聞社